

あひるのチャレンジ

令和8年10月8日



ふわふわ言葉を使おう！ プラス発言しよう！

5日(月)は、後期になって初めての児童朝会。後期も安全・安心に、楽しく学校生活を送るため、1学期に話した『ピンクシャツデー』について、改めて子どもたちに伝えました。(詳しくは、HP 掲載の「あひるのチャレンジ第3号」をご覧ください。)

今週を『ピンクシャツウィーク』とし、次の3つのことを呼びかけました。

- ・「ふわふわ言葉」を使おう！
- ・「プラス発言」をしていこう！
- ・ピンク色の物を見た時は、その意味を思い出そう！



この取り組みに合わせ、今週は私もピンク色の服を着て校門で子どもたちを迎えています。他の教職員も、ピンク色の物を身に着けています。

「校長先生、私もピンクの服着てきた～!」「ここにピンク色あるねん!」とうれしそうに教えてくれる子がたくさんおり、心が温かくなります。まずは、ピンク色を意識することから始め、そこに込められた『相手を思いやる心』へとつなげていきたいと考えています。

明日は全校遠足・ウォークラリーです。相手を思いやる優しい言葉があふれる1日にするべく、開会式で改めてこの話をしたいと思っています。ご家庭でも、お子様へのお声がけをよろしくお願いします。

りんご・なしのコンポートから考える

昨日、給食で「りんごのコンポート」が、先日は「なしのコンポート」が出ました。実は、果物に火を通してあるのには、ある切実な理由があります。

本来、生の果物を安全に提供するためには、調理員が使い捨て手袋を着用する必要があります。しかし、中東情勢の緊迫化に伴う「ナフサ(プラスチックの原料)」の供給不足と価格高騰により、この手袋が大量に入手困難な状況が続いています。

「それでも、子どもたちに旬の果物を味わわせてあげたい!」 そんな熱い思いと工夫から生まれたのが、火を通したコンポートという献立です。「生のままの方がいいな」と思う子がいるかもしれませんが、この背景を知ると、一杯の給食の向こう側にある優しさに気づかされます。子どもたちにもこの話を伝え、感謝しておいしくいただくと呼びかけました。

本当にいろいろなことを考えさせられます。ぜひ、ご家庭でも話題にいただき、お子様といろいろな話をしてみてください。